

検査部長就任のご挨拶

検査部長 松岡 賢市

今年度より、検査部長を拝命しました。私は、昨年7月に血液・内分泌代謝内科学教室に着任しました。私はこれまで主に血液内科学を専攻し、長く造血細胞移植・細胞療法の研究と臨床を自身の専門として行って参りました。血液内科は、正確かつ丁寧な検査結果をもとにした診断と治療評価が不可欠な分野であり、いつも検査部の皆様による親身に温かい診療支援に本当に助けていただけてきました。そうした中で、今回、検査部の業務に深く関わる機会をいただきまして、大変嬉しく、また楽しみに存じております。

徳島大学病院医療技術部 臨床検査技術部門は、主に検査部、輸血・細胞治療部、病理部の3部からなっており、検査部では、現在、生物化学分析、生理機能、形態、感染制御、移植の分野において46名の臨床検査技師が日々の臨床検査業務に携わっております。現代の高度化した医療の中で、臨床検査の役割はますます大きくなっており、臨床診療を安定的かつ効果的に進めていく上で最も重要な医療基盤を提供しております。迅速、高精度の検査によって臨床を支援できるよう、スタッフの皆様が日々精緻に努力しておられる姿にいつも感銘を受けております。

この重要な病院のエンジンともいえる検査部を守ってくださっている多くの臨床検査技師が、安心して快適に勤務できる体制作りを進めることが、私に与えられた最も大事な任務であると思います。スタッフの皆様とともに、各診療科の先生方からの声もお聞きしながら、より実践的な検査運用により徳島大学病院の医療水準のさらなる向上への貢献を目指します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

細菌検査室からのお知らせ

 細菌（内 9305）

結核菌感受性試験の一部薬剤削除について

令和 7 年 5 月より、結核菌薬剤感受性試験に使用している『結核菌感受性ビットスペクトルーSR』における構成薬剤から **EVM（硫酸エンビオマイシン）** が削除されます。これに伴い、令和 7 年 4 月以降の結果報告より、結核菌薬剤感受性試験における EVM の報告を終了させていただきます。ご理解の程よろしくお願い致します。

※削除理由：EVM 製造中止により令和 7 年 4 月薬価削除となるため



委託(外注)検査からのお知らせ



委託（内線 6651）

1. 新規項目

令和 7 年 4 月 1 日より、新規検査項目の受付を開始しております。ご確認ください。

委託先	検査項目	検査方法	検体種	検体量	採取容器	所要日数
SRL	有機酸スクリーニング	Gas Chromatograph 法	部分尿	5mL	外 22	7～14 日
		その他特記事項：専用依頼書必須 （匿名符号：カナで患者実名をご記入ください）				
BML	サイトメガロウイルス核酸定量	リアルタイム PCR 法	血漿	1.5mL	外 45	2～4 日
		その他特記事項：禁開栓				

2. 変更項目

令和 7 年 4 月 1 日より、下記項目の内容が変更となっております。ご確認ください。

委託先	検査項目	変更内容	変更前	変更後
SRL	ヒトパピローマウイルス (HPV) ジェノタイプ判定	報告内容	検出型（陽性）のみ 報告	16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68 型 →それぞれの検出結果
		基準値	陰性	検出せず
	特異的 IgE (シングルアレルゲン) /FEIA	判定基準	抗体価：0.35～<0.70 →疑陽性	抗体価：0.35～<0.70 →陽性
BML	トランスフェリン	検査方法	ネフェロメトリー法	免疫比濁法
		報告範囲	<1～最終値	<4～最終値
LSIM	ビタミン B12	検査方法	CLIA	CLEIA
		検体量	0.4mL	0.6mL
		基準値	233～914 pg/mL	180～914 pg/mL
		報告下限	<25	<50
		備考	—	①溶血不可：高値傾向 ②EDTA 血不可：高値傾向
	副甲状腺ホルモン whole (whole PTH)	備考	採血後速やかに冷却下で 血漿を分離することで不 活性化を防ぐ	①採血後速やかに遠心 ②ヘパリン血漿可
	レベチラセタム	備考	—	全血放置は酵素分解による 影響の可能性あり。採血後 速やかに遠心分離。
	シリアル LeX-i 抗原 (SLX 抗原)	保存安定性	凍結（12 週）	冷蔵（21 日）
	抗カルジオリピン・β 2GP I 複合体抗体 (抗 CL-β2GP1 抗体)	基準値	≤ 3.5 U/mL	< 3.5 U/mL

LSIM	プロコラーゲンⅢペプチド (P・Ⅲ・P)	検査方法	IRMA (チューブ固相法)	CLIA
		基準値	0.3～0.8 U/mL	3.62～9.52 ng/mL カットオフ値（肝に線維化のみられる疾患）：6.95 ng/mL
		報告範囲	< 0.3～≥ 999000	< 0.50～≥ 750
		所要日数	3～6 日	2～5 日
		備考	—	①溶血不可：低値傾向 ②ビオチン（5mg/日）以上投与・摂取患者 →投与後 8 時間以上経過してから採血実施
	葉酸	検査方法	CLIA	CLEIA
		検体量	血清 0.5mL	血清 0.6mL
		基準値	3.6～12.9 ng/mL	≥ 4.0 ng/mL
		報告範囲	< 0.4～≥ 20.0	< 1.0～≥ 22.3
		備考	ビオチン 1 日 5mg 以上投与・摂取患者 →投与後 8 時間以上経過してから採血実施	①溶血不可：高値傾向 ②EDTA 血不可：高値傾向
	フォン・ウィルブランド因子 活性 (リストセチンコファクター)	検査方法	固定血小板凝集法	LA (ラテックス凝集比濁法)
		検体量	クエン酸血漿 0.4mL	クエン酸血漿 0.5mL
		基準値	50～150 %	O 型：48.2～201.9% A,B,AB 型：60.8～239.8%
		報告範囲	< 10～≥ 400	< 7.0～≥ 480.0
		報告桁数	整数	少数 1 位
		備考	O 型では他の血液型よりも約 25%低値傾向	リウマチ因子が高値（100 IU/mL 以上）の場合 →測定値が高値傾向
	TARC	備考	—	薬剤性過敏症症候群 カットオフ値：4000pg/mL

【委託先変更】

LSIM→SRL * 結石分析

LSIM→BML * 血清 M 蛋白免疫固定電気泳動 * 肝細胞増殖因子（HGF）
* 尿中 M 蛋白免疫固定電気泳動（ベンスジョーンズ蛋白同定）

3. 中止項目

下記外注項目は、院内測定開始に伴い令和 7 年 3 月 31 日をもって単価契約終了（オーダリング削除）となっております。ご了承ください。

* トリヨードサイロニン（T3） * サイロキシシン（T4） * FTA-ABS 半定量



検体採取時の注意点



化学（内 9303）

検体に何らかの不備が認められ、検査を適切に行うことができないと判断した場合には再採血をお願いしています。特に再採血を依頼することが多い原因として①溶血、②規定採血量の不足、③凝固などがあります。これらの注意点を説明します。

① 溶血

採血が困難な場合には溶血が生じることがあり、血清または血漿中に血球成分が溶出することで **LD、K、AST** などの値が上昇します。**標準採血法ガイドライン**には以下の溶血防止の方法が記載されていますので正しい手順の採血をお願いします。

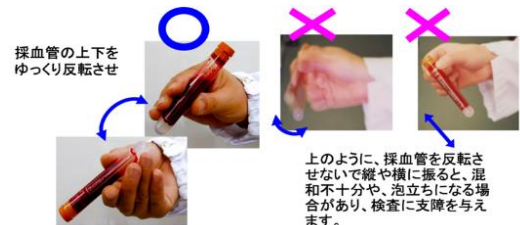
1. 皮膚の消毒後は消毒液が十分乾燥するまで待つて穿刺を行う
2. 23G より細い針は使用しない
3. 血腫部位から採血は行わない
4. 採血管には規定量の血液を採取、分注する
5. 採血管の転倒混和の際、泡立てないようにする
6. 長時間の駆血帯を避ける

患者 氏名		血清茶
99993017	化 内	06/27
00627210890 1/1		
血清		3ml

採血量

② 規定採血量の不足（凝固検査、外注検査など）

規定採取量は採取ラベルに記載があります。ラベル記載の採取量が困難な場合はポータル画面の下にある「**検査検索**」で検査項目の検索することで、**必要最低量の確認**することができますのでご活用ください。



（極東製薬工業株式会社から提供の参考資料）

③ 凝固（全血、血漿を用いる検査）

採血後は血液が抗凝固剤・凝固促進剤と完全に混和されるよう **5 回以上確実に転倒混和**を行ってください。

※検査項目追加について

血清茶・CBC・青液・灰 S は残血液量が十分ある場合のみ検査追加が可能です。検査追加できない項目もあります。**検査追加の際は確認が必要となりますので、連絡を行った後にラベルの送付**をお願いします。

検査不可項目：HBV-DNA 定量・HCV-RNA 定量・外注の血漿項目・時間経過により変動する項目など。



人事往来

【採用】

野中 蓮 超音波センター
大原 菜摘 形態（血液・一般）

（4 月 1 日付）

【退職】

菅崎 幹樹 形態（血液・一般）

（3 月 31 日付）

【異動】

山川 真由美 検体（緊急・化学・免疫）
西岡 麻衣 検体（緊急・化学・免疫）
鮫島 広大 細菌

→ 病理部（令和 6 年 12 月 16 日付）
→ 細菌
→ 検体（緊急・化学・免疫）

（4 月 1 日付）

（旧配属）

（新配属）

<スタッフ>

赤岩 沙紀 漆原 南実 吉岡 冴夏
西村 泰香 岩垣 侑真 松田 和子
山口 夏美 大西 光莉 佐藤 雅美
中尾 隆之

<編集後記> 暖かな春の日差しが感じられるようになりました。新年度を迎え、新たな目標を胸に、希望に溢れる 1 年をスタートさせましょう！（山口）